

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	特定医療法人清翠会		
事業所名	まきグループホーム 2 階		
所在地	大阪市旭区生江2-14-24		
自己評価作成日	平成28年10月 28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2773100827-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2773100827-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年11月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何をする時もご本人様に声掛けを行い意志をお聞きしながら支援しご本人の思いを確認しながらケアを心がけている。職員は入居者様とコミュニケーションを図りながら、日常の様子から見えてくる生活習慣等の情報を職員全員で共有できるように記録を記入している。その情報をもとに計画作成者を中心にカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。全員で考え一つのチームとして何事にも取り組むという考えが定着してきている。生活環境としては季節感を常に感じていただけるように、壁には職員と入居者様と一緒に作成した季節に合った壁画を飾るようにしたり、また、家族様に対しては、来られた時には日頃の入居者様の生活状態をお話するようにし、家族様との架け橋となるように心がけている。皆様高齢となっておられるので体調の変化を伝えられない方が多くなり職員は日頃から気づきを持ち対応し管理者に相談するようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」と掲げている。入居者様も含めた支援を行っており、毎年品質目標を設定し申し送り時に読み上げ意識を高めている。半期に一度中間評価を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、回覧版や、運営推進会議で地域の情報をいただいている。地域のお祭りに出かけたり、行事に参加し地域の方と交流を図っている。子ども会の子どもさん達とも七夕などの行事に参加していただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りや行事に家族様、入居者様、職員と一緒に参加し認知症の理解を深めて頂くようにしている。子供会のお子さんにおやつ作りの協力をしてもらいグループホームの事を知ってもらえる機会が持てた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域、包括、家族の方に活動状況を報告している。ご意見をいただき活用するようにしている。地域の情報もいただきイベントにも参加させていただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度に関しては旭区役所の介護保険課の担当者に相談をすることもある、事故が発生したときは行政に届け出を行い対策についても相談しアドバイスをいただく機会がある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施し、どのような事が身体拘束となるのかから説明をして、職員の理解を深めることができるように取り組んでいる。参加できなかった職員へは資料を配布し自身のケアの内容を振り返りをするようにしている		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、職員の理解を深めることができるよう取り組んでいる。通報義務の必要性も伝えている。参加できなかった職員へは資料を配布し職員自身が振り返りができるようにレポートを提出してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対し所内研修を行い理解を深めるよう努めている。2階では1名安心サポートの支援を受けておられ相談をしながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族様、またはご本人に内容を説明し不明な点に関して質問して頂いたり、入居前に理解、納得していただけるようにしっかり説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では職員と家族様と懇談会を実施し、家族様から意見を聞いたり交流していただいている。参加されなかった家族様にもアンケートを実施している。アンケートにて得られた意見に関してはすべてに回答をし次回に改善している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフのみが参加する職員ミーティングを定期的に関催をしている。全員が率直な意見を出すことができるように事前に議案を募っている。話し合われた内容は運営会議で検討し職員に返している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員間でミーティングを行い業務の見直しや改善を行い不満がないよう努め職員が働きやすい環境作りを行っている。職員により偏った残業がないよう管理し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については案内を回覧し希望があれば業務として参加できるようにしているが今年度は参加希望が少なかった。法人内では介護職の研修やリーダー研修を開催しており、職員が参加できるように支援をしている。定期的に施設内でも勉強会をしている。		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区内でグループホーム連絡会行っており、全職員が参加できるように調整している。相互でサービスの向上が図れるよう情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会し入居前のご様子を聞いたりご本人様から希望や願いを聞き取り不安なく安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも聞き取りを行い、希望に添えるようにしている。無理な場合は説明をしっかりと行い理解をして頂けるようにしている。入所後も面会時にコミュニケーションを図り信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は聞き取りを行い暫定でケアプランを作成し1ヶ月後にモニタリングを行い再度ご意見を聞いて満足して頂けるよう改善している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩であるという尊厳をもって接する事を基本に考えている。ご本人の意思を尊重をし制限のない生活をして頂けるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを作成する時に家族様の要望も聞き取り家族の方の協力を頂き共に支援ができるように取り組んでいる。家族様が来られた時は日々の暮らしや状況をお伝えしご本人と家族様との関係が円滑に行くようにサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご本人の意向に沿えるように聞き取りを行い、馴染みの理容店にへ出かけていただくようにしたり家族様とも一緒に行かれています。		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士気の合わない方もおられるので配慮した席にしている。入居者様同士でトラブルが発生した時は職員が間に入りお互いが納得されるよう努めている。入居者様が孤立しないよう声掛けを行いコミュニケーションを図るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急変され亡くなられた入居者様のお通夜に参列させていただき家族様と故人の思い出話をさせて頂いたり、相談があれば応じ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望は基本的にはご本人にお伺いしているが困難な場合は家族様に聞き取りを行いご本人の思いに可能な限り寄り添えるようにしている。ケアプランに反映できるようにカンファレンスを行い話し合いをしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からコミュにケーションをした時に情報を把握したり、家族様からも今までのなじみの暮らしに近づけるよう努めご本人のペースで過ごしていただけるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の言動や行動を介護記録に記入し情報を共有し、カンファレンスの時に意見を出してもらいケアプランを作成し統一したケアが行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うときは全員が参加できないためコメントシートを作成し、職員個々の意見を書くようにしている。モニタリングの時には家族様のご意見を伺うようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を実施している。まとめ書きにならないようにその都度時間の経過とともに入居者様の言動、行動、ケアの状況を記録しケアプランの見直しに反映させ実践している。		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様お一人、お一人が望まれることに可能な限り対応をしていくように心掛けている。通院、入院の際に家族様の対応が無理な時は職員が手続きを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練を年に2回実施し1回は旭消防署にも参加して頂いている。1回は地域の方や入居者様にも参加して頂き意見をお聞きしている。地域の夏祭りにも家族様も一緒に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけの医師との継続を希望されるか確認を行っている。ご本人や家族様が希望された時はかかりつけ医に受診をしていただいたり、個別に訪問診療を受けていただいている。体調不良時はかかりつけ医と職員とが連絡を取れるような体制にしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、職員は入居者様の変化に気付いた時、すぐに報告ができる環境である。24時間の連絡体制がある、その都度相談や指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内外の病院であってもサマリーを作成し、面会を行いご本人が安心して治療を受けることができるようにサポートしている。家族様、医療機関とも連絡を密に行いながら可能な限り早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化指針、看取り指針に基づき説明を行っている。延命処置が必要な時の意思確認書も頂くようにしている。終末期を迎えるにあたり、どこでどのように過ごされたいか、ご本人や家族様と医師と十分に話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が話し合い緊急時のマニュアルを作成している。事故やひやりとした時は必ずカンファレンスを行い事故やひやりを未然に防げるよう報告書を作成しすぐに回覧している。申し送り時にも報告、伝達をしている。		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練は夜間を想定し定期的に行っており、地域の方にも声をかけさせていただき参加していただいている。運営推進会議の場でも話し合いを行っている。近隣の小学校で行われた地域の防災訓練に入居者様にも参加していただいた		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇チェックシートで言葉使い、声のトーン、プライバシーの保護に関して自己チェック、主任がチェックを行っている。不適切な場合はコメントを記入し注意を促している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	直接ご本人に聞き取ったり、言葉で伝えられない方は日々の言動、行動から読み取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、お一人の生活のペースがあり部屋で過ごすことを希望される方には安全面も含め定期的に訪し確認を行っている。業務、職員都合によるケアは行わず入居者様に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や更衣の時にはご本人にお気に入りの衣類を選んで頂いたり好みの洋服を着て頂けるようにしている。洗面時や入浴後にはご本人に整髪をしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や盛り付け、食器拭きも入居者様にお手伝いをお願いしている。同じテーブルで可能な時は一緒に食事をしている。時々外出に出かけて頂き違う雰囲気を感じて頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿に関しては個々に排泄状況をチェックしている。可能な限りトイレで排泄して頂くように活動表を見ながらトイレ誘導を行っている。排便は排便チェック表にて毎日確認を行い申し送り時に伝えている。食事量や水分摂取量も個々に記録し職員が把握できるようにしている。		

まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の衛生が保てるように口腔ケアをご本人にして頂き出来ない所を支援している。ご自身で行うことが困難な方は職員が介助をしている。3名様は月1回歯科受診で口腔衛生をされている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては排泄チェック表を活用し個々の排泄状況を把握できるようにしている。可能な限りトイレで排泄して頂くようにしているがご本人が尿意を感じられるまで様子を見ることもある。排便は毎日確認を行い申し送りの時に伝達している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はチェック表を作成し管理を行って朝、夕の申し送りの時に報告をしている。便秘対策を強化し薬や処置にならないよう取り組み効果が出てきている。内服をしていただく方もおられ、状況に応じて看護師へ報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助量の多い方の入浴に関しては2人介助で安全に行っている。希望を確認しながら入浴して頂き無理強いせず入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝にゆっくりと眠られる方や、日中にお昼寝をする方もおられ、個々の希望に添えるように職員が配慮し環境の調整を行うようにしている。。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	9名様の1日分の内服をボードに貼り職員2名でチェックを行っている。服薬前後にも確認を行い、誤訳防止に努めている。内服の変更があった場合は症状に変化がみられていないか職員間で情報を共有するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を分担し、継続しご本人に了解を得てお手伝いをお願いしている。お手伝いをされる事で達成感を持たれ張り合いを持たれているように思われる。歌を唄われるのが好きな方が多いので歌を唄っていただく機会を作っている。		



まきグループホーム(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画が有る時には本人様の興味のある所に行っていたりできるように配慮している。地域のお祭りに参加した時には地域の方も協力してくださっている。長距離での歩行は困難な方が多く、車椅子が必要となり、職員配置の状況により一度に外出していただける人数に制限がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニなどで買い物をする時は好みのものを選んで頂きお財布から支払いをしていただいている。ご本人の買い物時はお預かり金からご本人に支払いをして頂いている。全員の方が行うことはできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状はできるだけご本人に書いていただいているがかける方は減少している。電話は希望があればかけて頂くように支援し希望が多い方は家族様から携帯をお預かりし使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には月毎の皆様の生活の写真や、又塗り絵や算数ドリルを掲示させて頂き、職員と見ながら談笑したり、季節の花を机に飾り季節感を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに臥床用のソファを置いて眠気があるとき少しの時間横になって頂いている。テーブル前の自席でテレビを見たり談話される事が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあることでご本人が安心して暮らして頂けるよう、自宅で使用されていた仏壇等を持ってきていただいている。お部屋でゆっくりと本を読まれたり、テレビ観賞などされる方は家族様と相談し机や椅子などを準備していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりにくい方には目印をつけたり、お名前がわかるように工夫している。手引き歩行をして頂くのではなく、出来るだけ手すりを持ってご自身で歩いて頂くようにしている。押し車を使用して頂き安全に歩行して頂いている。		